科目名			担当教員	
医療・福祉経済論			佐藤　英仁	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
DF3147	2	1	RorSR（講義）	2年以上
生成AI利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2026年度の開講後は2028年度開講予定です。

科目の概要

■科目の内容

人口などの統計データは非常に身近ですが、曖昧なことも多いと思います。例えば、「日本人は男性と女性ではどちらが多いのか」、「現在人口は増えているのか、減っているのか」、「平均寿命は何歳か」、「どの都道府県がもっとも長生きか」など、自信を持って答えられるでしょうか。

医療・福祉経済論では、人口や出生率、死亡率などの医療・福祉分野の様々な統計データを見ることで日本の医療・福祉の現状を学びます。

■到達目標

１）人口の推移や将来予測について説明できるようになる。
２）日本の出生率や死亡率、疾病構造を説明できるようになる。
３）経済学の基礎的な理論について説明することができる。
４）GDPや経済成長率を説明することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「俯瞰的な分析力」「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価20%＋スクーリング評価 or 科目修了試験80%

■教科書・参考図書

【教科書】

厚生労働統計協会『国民衛生の動向2025/2026』厚生労働統計協会、2025（最新版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2025年8月

（スクーリング時の教科書）必要な資料はすべて配付しますが、厚生労働統計協会『国民衛生の動向2025/2026』（厚生労働統計協会、2025年）は参考になります。なお、『国民衛生の動向2026/2027』（執筆時は未発行、2026年夏ごろ出版予定）が出版された際には、こちらが教科書となります。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

人口などの統計データは非常に身近ですが、曖昧なことも多いと思います。例えば、「日本人は男性と女性ではどちらが多いのか」、「現在人口は増えているのか、減っているのか」、「平均寿命は何歳か」、「どの都道府県がもっとも長生きか」など、自信を持って答えられるでしょうか。

医療・福祉経済論では、人口や出生率、死亡率などの医療・福祉分野の様々な統計データを見ることで日本の医療・福祉の現状を学びます。また、GDP や経済成長率などの身近な経済用語や基礎的な経済理論についても講義します。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	医療・福祉の主要指標	日本における人口、出生率、死亡率などの現状や特徴を解説する。
2	国別、都道府県別に見た医療・福祉の主要指標	国別、都道府県別の人口や平均寿命の現状や特徴を解説する。
3	近年の日本経済の現状	リーマンショック後の日本経済を失業率や有効求人倍率などのデータを用いて解説する。
4	日本経済の歴史	戦後（1945 年以降）の日本経済の変遷について大まかに解説する。
5	基礎的な経済用語	GDP や経済成長率の概要を説明する。
6	医療・福祉の提供体制の現状	医療機関や医療従事者の現状や特徴を解説する。
7	経済学の基礎理論	価格決定のメカニズムや消費者理論を説明する。
8	まとめ	
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。講義中に表示したパワーポイントのスライドはすべて配付します。

■スクーリング　評価基準

授業への参加状況 20%＋スクーリング試験 80%（持ち込みすべて可）

※試験はマークシートによる択一式にて実施します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

講義内容の関心のあるテーマについて、新聞等から関連記事を見つけて読んでおいてください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	全国人口の動向 (第２編第１章)	日本の人口の現状や推移について理解する。また、世帯数や世帯構造についても理解する。	現在、日本の人口は毎年減少しています。それに伴い、人口構成が劇的に変化しています。年齢別３区分の人口を見て、少子高齢化の現状を理解してください。また、世帯構成を見て、高齢者のみの世帯が増えていることを理解してください。同時に、少子高齢化も問題点についても考えてみましょう。
2	都道府県別人口と世帯数動向 (第２編第１章)	都道府県別に人口や世帯数、人口増減の現状について理解する。また、人口や世帯数について都道府県の違いを理解する。	都道府県によって高齢化率が異なります。どの都道府県が高齢者が多く、どの都道府県が高齢者が少ないのかを理解してください。また、高齢者の多い都道府県は医療や福祉が充実していると言えるのかを考えてみましょう。さらに、人口が増えている都道府県を確認し、その理由を考えてみましょう。
3	出生 (第２編第２章)	合計特殊出生率について学ぶ。また、出生の現状や推移を理解する。さらに、都道府県別の出生についても理解する。	合計特殊出生率は期間合計特殊出生率とコーホート合計特殊出生率の２つがあります。両者の違いを理解しましょう。また、合計特殊出生率の推移について理解し、減少した理由を考えてみましょう。
4	死亡 (第２編第２章)	死亡率の年次推移や死因別に見た死亡状況について現状と推移を理解する。また、死因の国際比較を行い、日本と諸外国との違いを学ぶ。	日本人の死因を上位４つを中心に理解しましょう。また、悪性新生物の部位別に見た死因についても理解しましょう。脳血管疾患による死亡が減少しています。その背景についても考えてみましょう。
5	結婚と離婚 (第２編第２章)	結婚と離婚の現状と推移について理解する。また、国際比較を行い、日本と諸外国の違いを学ぶ。	結婚と離婚の現状を理解し、諸外国と比較してみましょう。日本の離婚率はかなり低い水準です。なぜ、日本の離婚率が低いのか、その理由を考えてみましょう。
6	生命表 (第２編第３章)	平均余命、平均寿命、健康余命について学ぶ。また、平均寿命の現状や推移を理解する。さらに、都道府県比較や国際比較を行い、都道府県の違いや日本と諸外国との違いについても理解する。	平均余命と平均寿命の関係を理解しましょう。また、平均寿命が長い都道府県、短い都道府県を確認し、なぜ、平均寿命が長いのか、なぜ平均寿命が短いのかを考えてみましょう。
7	医療対策の動向 (第３編第５章)	医療法や改正の歴史について理解する。また、都道府県が策定する医療計画についても理解する。	医療計画の内容を理解しましょう。特に、５疾病５事業や二次医療圏について理解しましょう。また、自分の住んでいる二次医療圏を確認し、十分な病院があるかを考えてみましょう。
8	医療関係者 (第３編第５章)	医師、歯科医師、薬剤師、保健師、助産師、看護師などの医療関係者数の現状と推移について理解する。また、国際比較を行い、日本と諸外国との数の違いを理解する。	医師数、看護師数を中心に確認し、医師不足の現状や看護師不足の現状を理解しましょう。また、都道府県によって数にばらつきがあることを理解しましょう。医師不足や看護師不足を解消するためにはどうしたらいいのかを考えてみましょう。

9	医療施設 (第３編第５章)	医療施設の種類について整理したうえで、種類別医療施設数の現状や推移について理解する。また、病床数や平均在院日数の現状や推移についても理解する。	開設者別に見た施設数を中心に医療施設の数や病床数について理解しましょう。近年、病院が減少している一方、診療所が増加しています。その理由を考えてみましょう。
10	医療保険制度の現状 (第４編第１章)	医療保険の種類について学ぶ。また、傷病手当金や高額療養費などの医療保険の使用例についても理解する。	医療保険の種類について、誰が加入しているのか、保険者は誰なのかを理解しましょう。この機会に自分の医療保険を確認してみてください。また、傷病手当金や高額療養費、出産手当金、療養費などは制度を知らないと損をしてしまいます。必ず理解しましょう。
11	後期高齢者医療制度 (第４編第１章)	後期高齢者医療制度の概要について理解する。特に保険者や保険料、財源についても理解する。	後期高齢者医療制度が導入された背景について考えてみましょう。また、後期高齢者医療制度の問題点についても考えてみましょう。
12	診療報酬 (第４編第１章)	診療報酬の概要について理解する。特に、2020 年の改定で診療報酬はどう変わったのかを理解する。	診療報酬には出来高払い方式と包括払い方式があります。両者の特徴について理解しましょう。また、直近の診療報酬の改定（2020 年４月）のポイントを整理しましょう。
13	医療保険制度のあゆみ (第４編第１章)	国民皆保険の実現後の医療保険制度のあゆみについて理解する。特に、保険者の再編・統合について理解する。	老人医療の自己負担割合の変遷を中心に医療保険制度の歩みについて理解しましょう。なぜ、自己負担割合を上げなければならなかったのか、その背景についても考えてみましょう。
14	公費医療 (第４編第１章)	公費医療制度の概要について理解する。また、生活保護における医療扶助の現状や推移についても理解する。	公費医療の一つに生活保護の医療扶助があります。生活保護制度を理解したうえで、医療扶助の推移を確認しましょう。被保護実人員に占める医療扶助人員の割合は増加傾向になっていますが、扶助費総額に占める医療扶助費は減少しています。その理由を考えてみましょう。
15	国民医療費 (第４編第１章)	国民医療費の定義について学ぶ。また、国民医療費の現状や推移についても理解する。	国民医療費には制度区分別や財源別、診療種類別など様々な見方があります。これらの特徴について理解しましょう。また、高齢化にもかかわらず 2000 年および 2002 年は国民医療費が減少しました。その理由を考えてみましょう。

■レポート課題

１単位め	日本の人口について、人口構造（年齢３区分別）や世帯構造に留意しながら特徴を述べなさい。 また、諸外国と比べたときの日本の人口の特徴についても述べなさい。
２単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

経済と人口は一見、関係がないと思われるかもしれませんが、実は大きく関係しています。人口が減少するということは、人口構造が変化する（子供の数が減り、高齢者の数が増える）ことを意味しています。医療や福祉をより必要とする高齢者の数が増えれば、医療や福祉を提供する労働者が不足することは容易に想像できます。また、現在の

医療保険や年金は現役世代（若い人）から保険料を集めて、高齢者に給付する方式です。給付を必要としている高齢者が増える一方で、保険料を支払っている現役世代が減ってしまえば、財政的に厳しい状況になります。このように人口の減少は最大の経済問題と言っても過言ではありません。

この科目では医療・福祉に関する様々な統計データを見ていきますが、単に日本の人口の現状や推移を見るだけでなく、世帯構造や出生率、死亡率などの他の統計データを同時に見ていくことが重要です。また、なぜそのような数値になったのか、その意味を考えながら学習してください。年度ごとに統計データは新しいものが追加されていきます。これに対応するために毎日、新聞を読む習慣をつけるといいでしょう。また、教科書以外にも厚生労働省「人口動態調査」（https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1a.html）も参考にしてください。

【1 単位めアドバイス】

この課題に関しては、テキストの pp.41～50 および pp.354～361 を参照してください。日本は少子高齢化と言われていますが、実際に日本人は何人で、高齢化率はどのくらいなのか、戦後どのように推移してきたのかなどを数値で見ておくと、今まで知らなかった様々な問題点が明らかになると思います。また、世帯構造の現状や推移も同時に見ることで、福祉や医療の必要性に気づくことができると思います。ただ単に数値を列挙するだけではなく、その数値の意味（背景や問題点）を考えながらレポートに取り組んでください。

【2 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

科目修了試験

■評価基準

- 人口の現状と推移、問題点が理解できているか。
- 死因や出生率などのマクロデータの現状と推移が理解できているか。
- 経済の基礎的な用語が理解できているか。
- 基礎的な経済理論が理解できているか。